

生物研究

第 XVII 卷 第 3・4 号

1973

(終卷記念号)

THE LIFE STUDY

Vol. XVII, Nos. 3・4

(Final Issue)

December 25, 1973

FUKUI, JAPAN

目 次

報 文

台湾産アナバチ科の研究 (XV) (英文)	常 木 勝 次	… (39)
マメギングチバチの習性	田 堃 正	… (50)
樹脂を使用するキユビギングチバチの習性	南 部 敏 明	… (55)
トゲアシギングチバチについての観察	山 田 晴 昭	… (61)
カヤの筒に造られたヒメコシボソバチ類の巣 (英文)	常 木 勝 次	… (63)
トモンハナバチの巣の1例	前 田 泰 生	… (74)
ニッポンジガバチモドキの巣	田 堃 正	… (77)
フクモンアシナガバチの多雌創巣例の発見 (英文)	山 根 正 氣	… (79)
スズメバチ属ハチ類のコロニー内の分業。Ⅲ, 外役活動	松 浦 誠	… (81)
奄美群島の蜂類	室 田 忠 男	… (100)
常木教授採集朝鮮産広腰眼目の蜂類 (英文)	富 樫 次 次	… (103)
アナバチ科2種の学名変更 (英文)	富 樫 次 次	… (113)
1972年台湾で採集した蜂類	室 田 忠 男	… (115)
山梨県のアナバチ科 (第1報)	須 田 博 久	… (121)
有刺類の行動等について	宮 野 正 雄	… (125)
日野山のソボツチスガリの巣	常 木 勝 次	… (127)
カギバラバチ類の採集	常 木 勝 次	… (128)

採 集 行

山梨県ハチ類採集コース	須 田 博 久	… (131)
-------------------	---------	---------

研 究 手 引

蜂類研究手引 (32)。日本産キマダラハナバチ属	常 木 勝 次	… (135)
--------------------------------	---------	---------

短 報

銀口蜂関係学名変更 (49)。筒巣に寄生したヒメバチ (49)。ウスキギングチ福井県から初記録 (54)。ジガバチモドキ検索表の訂正 (54)。日本産ジガバチモドキへの追加 (54)。キユビギングチ福井県第2の記録。岩手・秋田県で採集したアナバチ科 (76, 南部)。ガロアシギングチとニッコウギングチ (キ, 78)。モウソウタマオナガゴバチの習性 (99, 富樫)。マルバツツハナバチの単 (112)。サッポロジガバチモドキ 8福井県で発見 (113)。スミスハムシドロバチの巣 (114)。ツマアカツチバチを福井県で採集 (120)。フジジガバチの福井県内新産地 (120)。スギハラギングチについて (126)。オクネギングチについて (130)。エゾマエダテの学名変更 (134)。トゲアシギングチについて (150)。ジガバチモドキの獲物 (150)。埼玉県のアナバチ科 (150, 南部)。フクシスズバチの巣 (150)。

CONTENTS

K. Tsuneki: Studies on the Formosan Sphecidae (XV)	(39)
T. Tano: Nesting biology of <i>Entomognathus brevis</i> Linden observed in Japan	(50)
T. Nambu: Biology of <i>Crossocerus (Towada) flavitarsus</i> Tsuneki, using resin to close the nest entrance	(55)
H. Yamada: Some observations on nesting habits of <i>Crossocerus dentatus</i> H.-S.	(61)
K. Tsuneki: Nests of some Pemphredonine wasps in the pith of <i>Miscanthus</i>	(63)
Y. Maeta: A nest of <i>Antidium septemspinorum</i> Lep.	(74)
T. Tano: A nest of <i>Trypoxylon nipponicum</i> Tsuneki	(77)
S. Yamane: Discovery of a pleometrotic association in <i>Polistes chinensis antennalis</i> Per.	(79)
M. Matsuura: Intracolony polyethism in <i>Vespa</i> . III. Foraging activities	(81)
T. Murota: Some aculeate Hymenoptera collected in the Amami group of the Ryukyus	(100)
I. Togashi: Tenthredinoidea of Korea collected by Prof. K. Tsuneki in 1941-43	(103)
K. Tsuneki: Taxonomic notes on two species of Sphecidae	(113)
T. Murota: Sphecidae, Mutillidae, Scolidae and Chrysididae collected in Formosa in 1972	(115)
H. Suda: Sphecidae of Yananashi Pref., Japan	(121)
K. Tsuneki: A nest of <i>Cerceris sobo</i> on Mt. Hino, Fukui	(127)
K. Tsuneki: On Trigonalioidea of Japan	(128)
K. Tsuneki: A guide to the study of the Japanese Hymenoptera (32). The genus <i>Nomada Scopoli</i>	(135)

る。寺西さんはクマザサの葉に3599個の卵を産ませた記録を発表している。この種は腹部に黄斑のある黒いハチで、ハバチのある種か、ギングチのある種に似た様子をしている。大きさ7~10mmくらいである。

次はキスジセアカカギバラバチ *Poecilognalos fasciata kibunensis* Uchida だが、この種は北海道から九州までいることになっているが、少ない。福井県ではこれまで記録がなかったが、今年少し念入りに採集を行なった結果、赤兎の山道で1(9月29日)、嵐口で2(10月4日と10日)を得た。寺西さんによると6月から9月に現われて主としてイタドリに産卵するが、その他タケ、イノハタシダにも産卵するという。同氏は1匹の雌に4500余の産卵をさせたと書いている。台湾の原種は本部溪の竹の葉によくきていて、私は2回の訪台の際に13頭も採集した。日本のものを新亜種として記載したとき、内田さんはたくさんの違いを列記しているが、私の比較ではそんなに違いはない、日本のものは腹端の黄斑が大きく鮮かだという点が主なる違いで、その他の多くのものは単なる変異のようである。

以上のほかに寺西さんは本州から3種、北海道から1種の記載をしているが、そのどれにもあたらずのもの、私は2種やはり打波川の流域でとっている。その数もそれぞれ20頭以上あり、採集日はいずれも9月末から10月10日までの間である。これらはアナバチ科の晩く出るものがよく集まる、アリマキのついた木の下、落葉松の樹下、オオイヌタデの葉上などにきたものである。

以上の記述からよくわかると思うが、珍奇なカギバラをとるには晩くまで採集するということが第1である。8月で山行きを止める人は知らぬと思うが、本州ではそのころ、まだたくさんのギングチ、プセン、ゴリテス、ジガバチモドキ etc. も活躍しているのである。

オタネギングチについて

K. Tsuneki: A note on *Crossocerus opacifrons* Tsun., with the key to the male.

この種 *Crossocerus opacifrons* Tsuneki は、これまで余り採集されず、極めてまれな種とされていた。ところがそれは研究者が、このハチの出る時期に余り採集に出ないことが、主なる原因のようで、実際はそれほどまれではないようである。他の多くのギングチと同様に、この種も年2回の出現で、第1回は5~6月ごろ、第2回は8月の下旬から10月中ごろまで見られる。第1回が梅雨期に当たり、第2回が夏休みあけとなるため、研究者の採集活動がにぶるわけである。

特に第2回では活動の最盛期は9月で、福井県の記録では、この月の中、下旬に嵐、谷山、赤兎などの山地でとれている。10月4日に田埜正さんと2人で20頭以上をとった記録もある。活動時期については、他の同亜属の種、ヤスマツ、トゲアシ、エグレなどのギングチについて、同様のことが言える。

夏休みの終了をシーズン・オフと考えないよう、採集について研究者の留意すべき点であろう。

次のこの種の雄について述べておくと、私の1959年の検索表で、35の-の所へ行く。そこを次のように変更するとよい。

- 触角末端節は正常、中胸側は点条刻でない.....35'
- 35' 頭楯、大顎、中胸側の容腿域、前・中腿節の大部は黄、腹端節は黒、上額の点刻は特に密..... オタネギングチ
- 頭楯、容腿域、前・中腿節の大部は黒、(大顎はときに黄) 腹端節は先半赤褐、上額の点刻は特に密でない..... ガケギングチ

(常木)